

熊本 マリ Mari Kumamoto (Piano)

東京に生まれる。5歳からピアノに親しみ、10歳で家族と共にスペインへ移り住む。

1975年よりスペイン王立マドリード音楽院でホアキン・ソリアノ氏に師事。スペイン青少年音楽コンクール優勝。1982年に奨学金を受けてジュリアード音楽院に入学し、サーシャ・ゴロニツキー氏に師事。1985年から英国王立音楽院にてC・エルトン氏に師事。また、プライベートではアンジー・エステルハーザー氏に師事。英国ニューポート国際音楽コンクールに入賞。故ダイアナ妃より授与される。1986年、同音楽院卒業後、最年少で Recital-Diploma を授与され、帰国。



1991年、スペインの作曲家フェデリコ・モンポウ(1893～1987)のピアノ曲全集の録音を完成(世界初)。1993年、モンポウの伝記「ひそやかな音楽」を翻訳。同年、英国王立音楽院よりめざましい演奏活動に功績のあった卒業生にのみ与えられる資格 ARAM を贈られる。

1994年、プラハでチェコ・フィルハーモニー管弦楽団とジルバスターコンサートで共演。1996年、スペインでのジャパン・ウィークでリサイタルを開く。1998年、プラハでリサイタルを開催、及びヨセフ・スーク&スーク室内オーケストラと共演。1995年～2006年には毎年秋にローム・リリック・セレクションとして全国ツアーを重ね、好評を博した。2000年には NHK 教育テレビ「芸術劇場」の「BS クラシック ピックアップ」の司会を務めた。

2006年、デビュー20周年を迎え、ウィーン・フィルのメンバーと共演。2009年、“クラシック音楽をもっと身近に楽しんでもらう”というコンセプトに賛同し、「100万人のクラシック」コンサート・シリーズに参加。東京都内近郊 18箇所、続いて長野県内 6箇所にて「Shall We Dance?」ツアーを開催。2011年には、同コンセプトの「いこか！クラシック」シリーズ関西地方全 16公演に出演し、各地で好評を博した。2010年1月には、エジプトにてカイロ・オペラ・オーケストラと共演、アレクサンドリア(エジプト)、アンマン(ヨルダン)ではリサイタルを開催。軽快なトークをまじえた独自のコンサートは特に人気が高く、その活躍は日本国内にとどまらない。

エッセイ集はシヨパンより「薔薇よ、語って」「音よ、輝け」「ラ・ピアニスタ～太陽の門から」、講談社からは「人生を幸福にしてくれるピアノの話」が発売されている。CD はキングレコードより多数リリース、2006年、モンポウの作品集「静かな音楽」、2009年にはダンスをテーマにした「Shall We Dance?」、2011年にはシヨパン・イヤーからリスト・イヤーへの懸け橋として“愛のメッセージ”をテーマにした「鳥の歌」を発売。2012年2月には、日本各地の民謡をピアノで奏でる「日本の心、日本のメロディー～奥村一作品集」を日本コロムビア(DENON)よりリリース予定。2008年4月より大阪芸術大学(演奏学科)教授に就任。テレビ・ラジオへの出演、執筆活動など多才な活動で幅広いファンを獲得している。今年デビュー25周年を迎え、ますますの活躍が期待される。

熊本マリ OFFICIAL HP >> <http://www.marikumamoto.com>